

新書

西田幾多郎氏「日本文化の諸問題」序文と日本文程

序

四行分

此書は一昨年の春、京大の月曜講義に於て話したものを
 敷演したものである。その時は一時間宛三回の講演であつ
 たから、此書は量に於て、質に於て、面目を一新した。併し
 兎に角、それが此書を書く機縁となつたのである。「二」「三」「四」は、
 此書に於ての如き問題を論ずるに當つて、根柢となる私の
 考々の要点を述べたものである。五以下はそれに基づいて、
 東西文化の問題、日本精神の問題を、如何なる点から如何に
 見るべきかを考へて見たのである。此考は私未だ之を專
 門的に考究したのではなく、唯自分の哲學的体系を整理す

西田用紙

日本文化

九行分

沈潜する際、心は浮いて来たため、のま記したもので、過ぎな
い。その未熟なることは云ふまでもない。大方の教を私の
みか、ある乞小のみである。二から四までは、私の考の要点
主此処に必要をだけ 述べたためのであるから、哲学専門の人は簡に過ぐ
と思はれるでもあろう。それ等の人は私の「哲学論文集」に
^{フツ}詳細を^知理解せよ、と望む。又哲学的思索に慣れ
ない人は、^{あまりに専門的}理解し難いと思はれるかも知れない。それ等の
人は五以下だけよつても、私の云はんと欲する所を、
^大体として^了解せよ、と云ふことと云ふことと思ふ。

学問的方法と云ふのは、昭和十二年の秋、日比谷に於ての

岩波新書
日本文化
序 3

3

講演の要領である。文部省教
学局の教学叢書の中へ収め
られたものであるが、教学局
より願って此書々の終へ附
加することとした。

昭和十五年二月

著者

↑
本文より上へ

西田用紙

岩波新書
日本文化
序
4

目次

日本文化の問題

附録 学問的方法

目次

西田用紙

6
平三子